


# 一般質問通告書

次の通り質問したいので通告します。

平成 26 年 8 月 19 日

山北町議会議長 池谷 荘次郎 殿

受付番号	第 5 号	質問議員	8 番	熊澤友子 
件名	1. 自主防災組織の充実を 2. ヘルプカードの普及促進を			
要 旨				
<p>1. 自主防災組織の充実を</p> <p>我が国は地震国であり、いつどこで大地震が発生しても不思議ではありません。大地震が発生した場合、家屋の倒壊や津波、火災、がけ崩れなどにより被災した多くの人々が避難所に来られます。被災した方々が冷静さを取り戻し、助け合いながら避難所生活をするためには誰かが運営の中心者、協力者となっていかなければなりません。このような事を実践的に学べる、避難所運営ゲーム「HUG」を紹介します。「HUG（ハグ）」は静岡県で開発されHは避難所のH、Uは運営のU、GはゲームのGで頭文字を取ったもので、英語で「抱きしめる」という意味です。避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせて名付けられました。具体的には、5人が1組となり避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬的に体験するものです。プレイヤーは、このゲームを通して災害時要援護者への配慮をしながら部屋割りを考え、また炊き出し場や仮設トイレの配置など生活空間の確保、視察や取材対応といった出来事に対して、思い</p>				

のままに意見を出しあったり、話し合ったりしながらゲーム感覚で避難所の運営を学ぶことができます。その効果として、防災意識が高まり、自治コミュニティの強化にも期待できます。

当町では、担当職員は「HUG」を体験しているので、さらに防災リーダーや自主防災組織にも広げていくべきである。

## 2. ヘルプカードの普及促進を

障害や難病を抱えた人が必要な支援を予め記しておき、緊急時や災害時などの困った際に提示して周囲の配慮や手助けをお願いしやすくする、ヘルプカードを作成し、配布する自治体が増えています。このヘルプカードは常に持ち歩くものであり、災害時だけでなく日常的に何かあったときには助けていただけるという安心感ということで取り組まれています。何かあったときに弱者の方にすぐに支援の手を差し伸べられるということが、重要なため、町でも取り組むべきである。